

登録コード	UAC37500	開講年度	2026				
授業題目	比較文学研究					担当教員	野津 寛
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1 時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学， 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					西洋の思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有することができるためにも不可欠の素養であるラテン語の知識を、辞書と文法と注釈により原典が読めるレベルに到達することを目指す。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					西洋の人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有することができるためにも不可欠の素養であるラテン語の知識を、辞書と文法と注釈により原典が読めるレベルに到達することを目指す。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有するためにも不可欠の素養であるラテン語の知識を、辞書と文法と注釈により原典が読めるレベルに到達することを目指す。	
(2)授業の概要	本年度は Apuleius の Metamorphoses 第 1 巻の購読を行う。なお、この授業を受講するためには、ギリシア語とラテン語をそれぞれ 2 年以上学習し、初等文法と原典講読の基礎知識を備えていること、また、英語、フランス語、ドイツ語で研究論文を読みこなせることを条件とする。						
(3)授業計画	第 1 回： ガイダンス 第 2 回 Apuleius, Metamorphoses 1.1 第 3 回 Apuleius, Metamorphoses 1.2 第 4 回 Apuleius, Metamorphoses 1.3 第 5 回 Apuleius, Metamorphoses 1.4 第 6 回 Apuleius, Metamorphoses 1.5 第 7 回 Apuleius, Metamorphoses 1.6 第 8 回 Apuleius, Metamorphoses 1.7 第 9 回 Apuleius, Metamorphoses 1.8 第10回 Apuleius, Metamorphoses 1.9 第11回 Apuleius, Metamorphoses 1.10 第12回 Apuleius, Metamorphoses 1.11 第13回 Apuleius, Metamorphoses 1.12 第14回 Apuleius, Metamorphoses 1.13 第15回 Apuleius, Metamorphoses 1.14 期末試験は行わない。						
(4)成績評価の方法	● 以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（50％）、レポート（50％） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 ● 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】(1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する研究史と背景が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する既存学説が提示する解決法を適切に批判し、その問題点を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の見解の発見と提示ができており、かつ、（１）～（５）の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されていて、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】上記(1)から(5)までの5項目を満たしていいて、非常に高い水準にある。 【やや上にある】上記(1)から(4)までの4項目を満たしていいて、高い水準にある。 【その水準にある】上記(1)から(3)までの3項目を満たしていいて、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	ラテン語の原典と参考文献を熟読した上で授業に参加することが大前提であるが、授業の際に指名されたら準備してきた内容を発表することが期待されている。						
(7)履修上の注意	ラテン語とギリシア語を2年以上学習していること。英独仏語で書かれた学術論文を読みこなせること。						
(8)質問,相談への対応	教員に直接メールで問い合わせること：notsu@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	M. Zimmerman (ed.), Apulei Metamorphoseon Libri XI (Oxford Classical Texts), 2012 [ISBN 978-0199277025].						
【参考書】	教場で指示する。						